

全日本学生競技ダンス連盟 OB/OG ダンススポーツ競技会開催趣意書

全日本学生競技ダンス連盟 OBOG 競技会運営委員会

学連は設立以来、多くの OBOG を排出してきました。学生時代には競技ダンスの在り方やダンスの質の向上、さらには社会的な地位の向上について議論をし、青春を費やした人も多く、日本における競技ダンスならびに社交ダンスの普及に少なからず貢献してきました。近年は、健康ブームや高齢化社会の中で、社交ダンスがマスコミや映画などで再注目され、また、オリンピック競技種目候補として競技ダンスが脚光を浴びています。

こうした中で、一部の OBOG の努力によって自主的に運営されているものを除いては、大学という枠を超えて OBOG の広く交流できる機会がほとんどなく、また、そうした場を創ろうという考えも今まで表面化しませんでした。しかし、創部 50 周年や 60 周年を迎える大学が出てくるようになり、アマチュアやプロとして競技会等で活躍する OBOG、レッスンを受ける OBOG が増えるに従って、OBOG 交流の価値が高く評価されるようになってきました。一方、ダンスを卒業後も継続している OBOG、再び始めた OBOG の多くは、日本の社交ダンス、競技ダンス界を代表する統一された組織が存在していないこと、ダンス愛好家の意思とは全く別の論理でダンス界の各団体がばらばらに動いてきていることなど、理想とするダンスとのギャップに困惑し、失望感を抱いています。

学連出身の OBOG で、日本の社交ダンスや競技ダンスの活性化、世界での地位の向上を願わない人はいませんが、残念ながら、結集された力にはなっていません。ただ、ダンス競技者や愛好家の立場からこうした思いの実現に挑戦できるのは、現状では、学連出身という絆でつながった OBOG しかいないのも確かです。幸いなことに、2009 年 3 月に第一回学連 OBOG ダンススポーツ競技会が開催されたことがきっかけになり、学連 OBOG の大学間のネットワークをつくろうという動きが生まれました。

学連 OBOG が主体となった OBOG 競技会の継続的開催によって、我々のこうした想いをより大きな社会のうねりに変えていきたいと考えています。本競技会は、

- (1) 既存の団体ではできない、学連出身者らしい、ダンス競技者や愛好家、学連の視点に立った理想的なダンス競技会の在り方を目指すこと、
- (2) 競技会に出場する者だけのイベントではなく、できるだけ多くの学連 OBOG の参加、交流を促し、絆を深める場とすること、

を開催の目的とし、継続的な形で実現するために、学連 OBOG 競技会運営の原則をつくり、その下で、学連に属する、あるいは属していた大学の OBOG 会を組織の単位として組織的に実行できる体制にしたいと考えています。こうした競技会を成功させるためには、各大学の OBOG 会や学連、アマ・プロ諸団体など思いを同じくする人々の支援が不可欠です。各大学の OBOG 会の積極的な参加・支援をお願いするとともに、OBOG 会のない大学においても新たな組織作りが促進されることを期待しています。さらには、本競技会の挑戦が、参加された OBOG 等のネットワークを通じ、社会に発信され、広く認知されていくことを希望するものです。

学連OBOGダンススポーツ競技会の目的

(1) 既存の団体ではできない、学連出身者らしい、ダンス競技者や愛好家、学連の視点に立った理想的なダンス競技会のあり方を目指すこと。

(2) 競技会の出場するだけのイベントではなく、できるだけ多くの学連OBOGの参加、交流を促し、絆を深める場とすること。

学連の5原則(4原則)

1. 競技会は学校を背景とする団体競技を主体とすること。
2. リーダーも、パートナーもアマチュアであること。
3. 学生の自主運営によること。
4. 現役中心主義をとること。

学連OBOG競技会の4原則

1. 競技会は学校を背景とする団体競技を主体とすること。
2. リーダーまたは、パートナーが学連出身者であること。
3. OBOGの自主運営によること(すなわち他の組織が大会に口をはさまない)。
4. 各大学のOBOG会が主体になること。